

日光砂防のあけぼの

国による直轄事業として、日光で砂防事業が始まったのは大正7年(1918)のこと。その第1号である稲荷川砂防堰堤群が形成されるまでの歴史を振り返ってみましょう。

幻の第1砂防堰堤



流出前

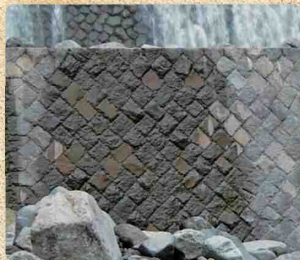


流出後

国による稲荷川の直轄砂防事業で、最初に建設された第1砂防堰堤(大正8年7月竣工)。コンクリートを使わず大きな岩を積み上げた、日光伝来の石造技術を駆使した堰堤でしたが、完成直後の大正8年(1929)9月、暴風雨に伴う土石流によって流失。これをきっかけに、砂防堰堤の工法は石からコンクリートへと、大きく転換することとなりました。

「蒲式」と呼ばれる独特の丸み

稲荷川砂防堰堤群は、水通しに丸みを持たせた独特のデザイン。これは、設計者の蒲氏にちなんで「蒲式」と呼ばれています。日光伝来の石積み技術を駆使し、周辺の山並みと調和する、他の砂防施設にはない美観をつくり上げているのは、稲荷川砂防堰堤の大きな特徴です。



それは稲荷川から始まった。

稲荷川に続々砂防堰堤が完成



第2砂防堰堤(1920年完成)



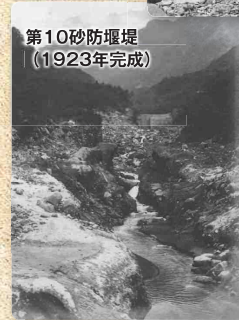
第3砂防堰堤(1921年完成)



第4砂防堰堤(1921年完成)



第6砂防堰堤(1922年完成)



第10砂防堰堤(1923年完成)



小米平砂防堰堤(1931年完成)



釜ツ沢砂防堰堤(1933年完成)



さらに詳しい情報はこちらから

国土交通省 関東地方整備局 日光砂防事務所

「砂防なくして日光なし」-先頭に立って砂防の必要性を訴えた初代日光市長・佐々木耕郎氏の言葉